

製品名: アルギナーゼ I ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07111**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	ARG1
別名	ARG1; Arginase-1; Liver-type arginase; Type I arginase
遺伝子 ID	383.0
SwissProt ID	P05089
免疫原	抗血清はヒト ARG1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

背景

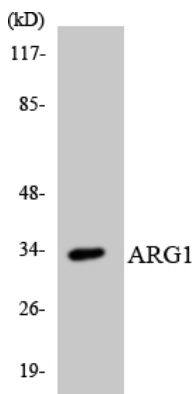
アルギナーゼは、アルギニンをオルニチンと尿素に加水分解する触媒作用を担います。哺乳類アルギナーゼには少なくとも 2つのアイソフォーム (I型とII型) が存在し、組織分布、細胞内局在、免疫学的交差反応性、および生理学的機能が異なります。この遺伝子

によってコードされるI型アイソフォームは細胞質酵素であり、主に肝臓で尿素回路の構成要素として発現します。この酵素の遺伝性欠損は、高アンモニア血症を特徴とする常染色体劣性疾患であるアルギニン血症を引き起こします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011年9月],触媒活性: L-アルギニン + H₂O = L-オルニチン + 尿素。補因子: サブユニットあたり2個のマンガンイオンを結合します。疾患: ARG1の欠陥は、アルギニン血症 (ARGIN) [MIM: 207800]の原因です。高アルギニン血症としても知られています。アルギニン血症は、尿素サイクルのまれな常染色体劣性疾患です。血液中および脳脊髄液中のアルギニンが上昇し、周期的な高アンモニア血症が発生します。臨床症状には、発達遅延、発作、精神遅滞、筋緊張低下、運動失調、進行性痙攣性四肢麻痺などがあります。誘導: アルギニンまたはホモアルギニンによる。オンライン情報: アルギナーゼの進入,経路: 窒素代謝; 尿素サイクル; L-アルギニンからのL-オルニチンと尿素: ステップ 1/1。類似性: アルギナーゼファミリーに属します。サブユニット: ホモトリマー。

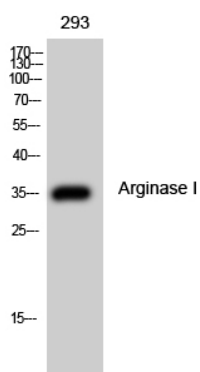
研究分野

アルギニンとプロリンの代謝

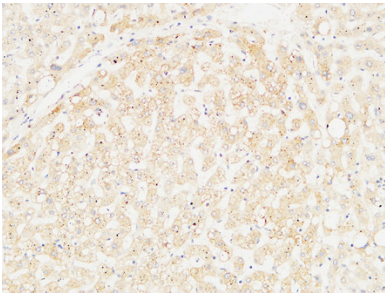
画像データ



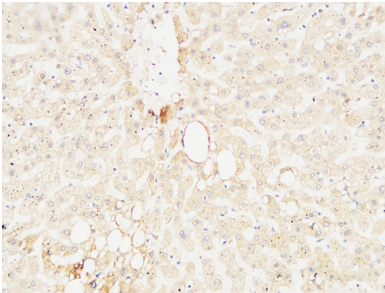
ARG1 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



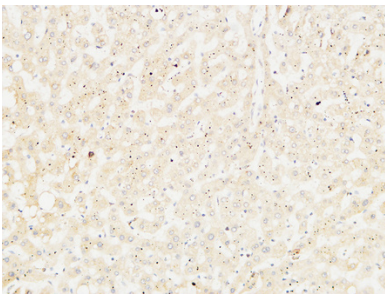
アルギナーゼIポリクローナル抗体を用いた293細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。